

株主の皆様へ

第 1 6 7 期 株 主 通 信

平成 2 5 年 4 月 1 日

▼
平成 2 6 年 3 月 3 1 日



nippi. incorporated



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ここに当社グループの第167期連結事業に関してご報告を申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、景気の持ち直しから企業収益の回復が見られたものの、海外景気の不安感などにより、不透明な状況で推移いたしました。

当社におきましては、コラーゲン、ゼラチン関連製品の原材料価格やエネルギー費用の高騰など厳しい経営環境のなかで、コスト削減の取り組み、拡販活動の展開により、収益確保に努めてまいりました。この結果、売上高・経常利益は増収、増益となりましたが、関係会社の事業整理などによる特別損失により当期純利益は減益となりました。

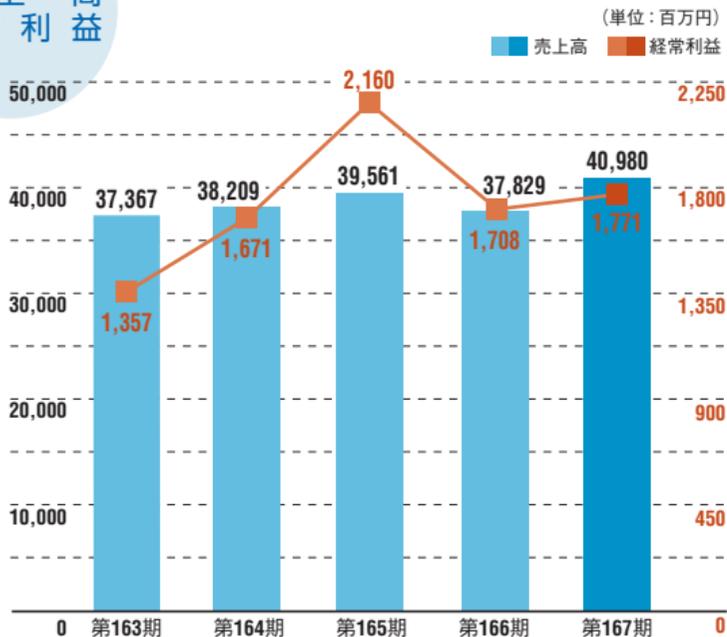
今後につきましては、公募および第三者割当増資による調達資金でコラーゲン・ケーシング製造設備を拡張し、売上高伸長とさらなる市場シェアの拡大を図り、経営基盤の強化に取り組んでまいります。

なお、当社は株主の皆様からのご愛顧にお応えすべく、このたび「株主優待制度」の導入を決定いたしました。株主の皆様におかれましては、何とぞ一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

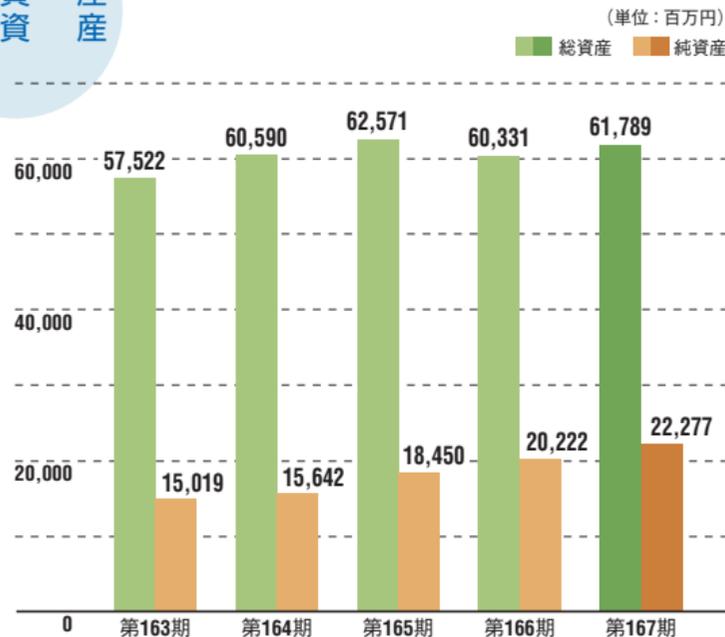
平成26年6月

代表取締役社長 伊藤隆男

売上高
経常利益



総資産
純資産



【トピックス】

- ① コラーゲン・ケーシング事業は、国内販売が大きく伸長し、売上高・営業利益ともに好調に推移いたしました。
- ② 当期純利益は、子会社の事業の見直しおよび関係会社の事業整理を行ったため、減益となりました。

連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

| 科 目 | 第167期 (平成26年3月31日現在) | 第166期 (平成25年3月31日現在) |
|------------------|-------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 20,644 | 19,468 |
| 固定資産 | 41,116 | 40,828 |
| 有形固定資産 | 36,518 | 35,843 |
| 無形固定資産 | 274 | 207 |
| 投資その他の資産 | 4,324 | 4,777 |
| 繰延資産 | 28 | 34 |
| 資産合計 | 61,789 | 60,331 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 19,706 | 19,933 |
| 固定負債 | 19,805 | 20,175 |
| 負債合計 | 39,512 | 40,109 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 12,883 | 11,219 |
| その他の包括利益累計額 | 9,078 | 8,550 |
| 少数株主持分 | 315 | 452 |
| 純資産合計 | 22,277 | 20,222 |
| 負債及び純資産合計 | 61,789 | 60,331 |

(単位：百万円)

連結損益計算書 (要旨)

| 科 目 | 第167期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで) | 第166期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで) |
|--------------------|--|--|
| 売上高 | 40,980 | 37,829 |
| 売上原価 | 31,509 | 28,136 |
| 販売費及び一般管理費 | 7,633 | 7,790 |
| 営業利益 | 1,838 | 1,902 |
| 営業外収益 | 447 | 435 |
| 営業外費用 | 513 | 630 |
| 経常利益 | 1,771 | 1,708 |
| 特別利益 | 144 | 1,838 |
| 特別損失 | 523 | 1,343 |
| 税金等調整前当期純利益 | 1,392 | 2,203 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 659 | 1,315 |
| 当期純利益 | 663 | 1,292 |

(単位：百万円)

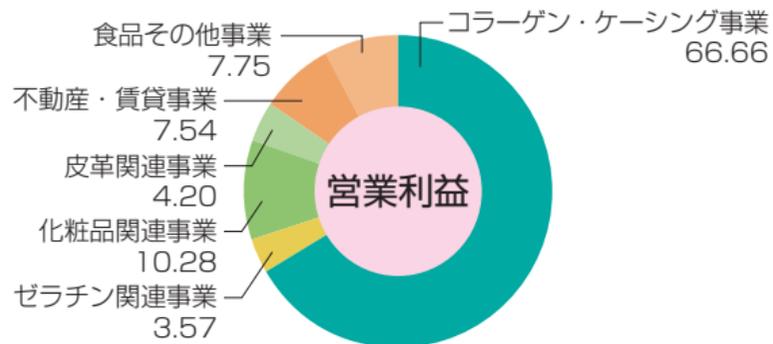
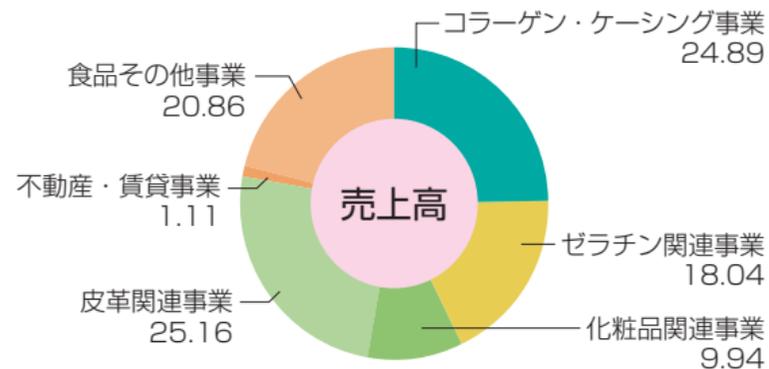
連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

| 科 目 | 第167期 (平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで) | 第166期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで) |
|-------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 69 | 2,531 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △85 | 2,259 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 431 | △4,717 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 21 | 18 |
| 現金及び現金同等物の増・減(△)額 | 436 | 91 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 4,102 | 4,010 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 4,539 | 4,102 |

セグメント別推移 (売上高・営業利益) (単位: 百万円)

| | | 167期 | 166期 | 165期 |
|---------------|------|--------|--------|--------|
| コラーゲン・ケーシング事業 | 売上高 | 10,200 | 8,819 | 8,173 |
| | 営業利益 | 2,326 | 1,910 | 1,461 |
| ゼラチン関連事業 | 売上高 | 7,392 | 7,279 | 8,561 |
| | 営業利益 | 124 | 649 | 899 |
| 化粧品関連事業 | 売上高 | 4,074 | 4,399 | 4,812 |
| | 営業利益 | 358 | 434 | 1,091 |
| 皮革関連事業 | 売上高 | 10,309 | 9,816 | 10,697 |
| | 営業利益 | 146 | 143 | 158 |
| 不動産・賃貸事業 | 売上高 | 456 | 380 | 430 |
| | 営業利益 | 263 | 166 | 191 |
| 食品その他事業 | 売上高 | 8,547 | 7,134 | 6,886 |
| | 営業利益 | 270 | 193 | 210 |
| セグメント合計 | 売上高 | 40,980 | 37,829 | 39,561 |
| | 営業利益 | 3,490 | 3,497 | 4,013 |

セグメント別占有率 (%)



コラーゲン・ケーシング事業

コラーゲンは、食品をはじめ、医療・医薬・美容などの様々な分野で注目を集めております。当社はこの素材をもとに日本で初めて可食性ソーセージケーシングの製品化に成功しました。以来、このコラーゲンを原料としたソーセージの皮“コラーゲン・ケーシング”の製造販売を行っております。

ソーセージの皮としては、天然腸（主に羊腸）が主流でしたが、近年この羊腸が世界的に品薄状態で価格が高騰しており、羊腸からコラーゲン・ケーシング等への代替が進んでおります。当社のニッピコラーゲン・ケーシングも活況を呈していることから、現在製造設備の拡張に着手し、生産能力の向上に取り組んでおります。



ゼラチン関連事業

ゼラチンは、溶液をゲル化させて粘性を付与させるために使用されています。口溶けが良く、離水性が少なく、透明感のあるゼリーに仕上がることがゼラチンゼリーの特徴です。ゼラチンは現在食品、医薬、写真等幅広い分野で利用されており、特に最近では、コンビニエンスストアの弁当や惣菜等のレンジアップ商品への利用が増えています。

ニッピペプチドは、ゼラチンを加水分解し、精製したコラーゲンペプチドです。ゲル化させることはできませんが、冷水中に溶解させることができます。健康食品のほか、医療用、工業用途など多分野で活用されております。

ゼラチン、ペプチドともに原材料価格やエネルギーコストが高騰し、厳しい状況にあります。採算改善に取り組むとともに、新製品の開発を推し進めてまいります。



化粧品関連事業

ニッピグループの高品質コラーゲンをういた化粧品や健康食品の開発をしております。特に“生コラーゲン”を主成分とした基礎化粧品「ニッピコラーゲンスキンケアクリームナノアルファ」を中心としたスキンケアアイテムや、健康食品として、コラーゲン・ペプチド100%の粉末サプリメント「ニッピコラーゲン100」を皆様にご愛用いただいております。

当事業の特長は、通信販売を通じてお客様に直接商品をお届けするとともに、商品等に関するご意見を直接お聞きできることです。当社をより身近に感じていただくとともに、お客様の声を活かした商品の開発・サービスの向上に取り組んでおります。

また、高品質の商品を安心してお使いいただくために、商品の製造は機械だけでなく、人の手と目によるチェックを大切にしております。卓越した技術で安心・安全な商品をお届けします。



皮革関連事業

当社の皮革事業は、創業以来日本の皮革産業を牽引してまいりました。当社の基幹事業でありました皮革製造は経営効率の観点からやむを得ず中止いたしました。長年に亘って蓄積した皮革製造の豊富な経験と知識、販売ノウハウはグループ会社に引き継がれ、現在も高い評価をいただいております。

当事業は、従来、原反の卸販売を中心に展開してまいりましたが、車輛用革の一部では裁断品・縫製品の販売への転換を図り、収益が改善してきました。これは、中国杭州に設立した海寧日皮皮革有限公司において、車輛用革の最終仕上げ工場が順調に稼働してきたことによりです。今後、自動車業界の生産拠点のグローバル化は益々進むことが予測され、当社グループの海外展開は大きな経営課題となっております。



不動産・賃貸事業

再開発を進めている東京都足立区および大阪市浪速区の遊休土地の有効活用を狙いとした賃貸事業を継続しております。

当社周辺再開発地区「ポンテグランデTOKYO」は地区内の道路整備もほぼ終了し、平成26年4月には、千住大橋駅前に商業施設「ポンテポルタ千住」がグランドオープンいたしました。同施設用地の賃貸は当社の本格的な賃貸事業と位置付けており、今後も安定的な収益向上に取り組んでまいります。

また、同開発地区内の賃貸用地には、ミズノスポーツサービス株式会社が運営するフットサルコートや、社会福祉法人彩保育会が運営する足立区認可保育施設等もあり、地域に密着した当社所有地の有効活用を通じて、社会貢献に努めております。



食品その他事業

<貿易部門>

生活関連物資を取り扱っており、特に建材や穀物・イタリア関連食材の輸入・販売に注力しております。

<リンカー・化成品部門>

当社独自の架橋技術によって開発された「ニッピリンカー®」は耐熱電線やゴルフクラブ等をコーティングする際のマスクングフィルムとして利用されております。また、塩化ビニル発泡体の「ニッピフォーム」はその加工の容易さから雑貨等に広く用いられております。

<iPS細胞関連部門>

ES/iPS細胞をはじめ、幹細胞や様々な細胞の培養用基材「iMatrix®-511 (アイマトリックス®-511)」は、昨年7月より一般販売を開始し、多くの研究機関にてご使用いただいております。



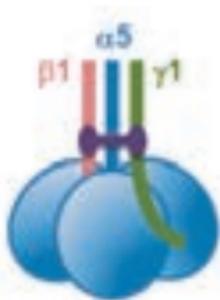
バイオマトリックス研究所

ニッピバイオマトリックス研究所は、コラーゲン研究をリードする国内有数の研究機関です。世界に先駆けてコラーゲン研究・開発に取り組み、1963年にコラーゲンの可溶化に成功、特許を取得しました。この研究成果を礎として、当社の現在を支える主力製品コラーゲン・ケーシングやペプチド、コラーゲン化粧品等が誕生しました。現在も新たな製品の卵を生み出すべく基礎研究を継続するとともに、各事業の営業活動をサポートしております。

当研究所では、永年培ってきた知見や最先端技術を背景に、「再生医療」に役立つ製品の開発にも力を入れています。例えばそれは「iMatrix®-511」。これは今話題のiPS細胞を効率よく、大量に培養することができる新規の細胞培養基材です。当社は大阪大学と京都大学の共同研究チームと製造・販売のための独占契約を締結し、2013年7月より一般販売を開始しております。



(A)



(B)

(A) バイオマトリックス研究所外観
(B) iMatrix-511の構造イメージ図

コラーゲンの種類と役割

コラーゲンはカラダのあらゆるところで働いています。当初は1種類のみが確認されていましたが、1960年代に軟骨で異なるタイプのコラーゲンが発見されました。これを機に、最初に発見されたコラーゲンをI型、軟骨のコラーゲンをII型と命名し、以降発見された順に番号（ローマ数字）で呼ばれ、これまでにXXVII型まで知られています。

各型のコラーゲンは、カラダの各部位に存在する細胞が必要に応じて作り出しており、それぞれ異なった働きをしています。例えば、I型は皮膚や骨に多く存在するコラーゲンで、皮膚ではハリを、骨ではしなやかさを保っています。II型は軟骨の主成分であるコラーゲンで、膝などで衝撃を吸収する働きをしています。III型はI型コラーゲンと同様、皮膚や血管など、弾力のある部位や若い組織に多くあります。

この度、株主優待品としてお届けする製品「ニッピコラーゲン100」は、I型が約90%、III型が約10%の割合で構成されています。



(C)



(D)



(E)

(C) I型コラーゲン 研究用試薬
(D) コラーゲン線維の電子顕微鏡写真
(E) ニッピコラーゲン100

(平成26年3月31日現在)

■ 会社の概要

商 号 株式会社ニッピ

設 立 年 月 日 1907年（明治40年）4月1日

資 本 金 4,404百万円

従 業 員 数 616名（連結対象会社合計）

本 社 東京都足立区千住緑町1-1-1

主 な 事 業 内 容 コラーゲン・ケーシング、ゼラチン、その他コラーゲン関連製品の製造販売および皮革関連製品等の販売

ホ ー ム ペ ー ジ <http://www.nippi-inc.co.jp/>

主 要 取 引 銀 行 みずほ銀行
三菱東京UFJ銀行
みずほ信託銀行

(平成26年6月27日現在)

■ 取締役および監査役

| | |
|---------------|-----------|
| 代 表 取 締 役 社 長 | 伊 藤 隆 男 |
| 常 務 取 締 役 | 吉 原 道 博 |
| 常 務 取 締 役 | 河 村 桂 作 |
| 取 締 役 | 新 谷 隆 行 |
| 取 締 役 | 小 林 祥 彦 |
| 取 締 役 | 伊 藤 政 人 |
| 取 締 役（社 外） | 村 上 勝 彦 |
| 監 査 役（常 勤） | 関 田 安 彦 |
| 監 査 役（常 勤） | 吉 田 安 |
| 監 査 役（社 外） | 大 倉 喜 彦 |
| 監 査 役（社 外） | 伊 藤 敬 四 郎 |

(平成26年3月31日現在)

■ 株式の状況

| | |
|----------|------------------|
| 発行可能株式総数 | 48,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 14,392,558株 |
| | (自己株式52,442株を除く) |
| 株主総数 | 2,020名 |

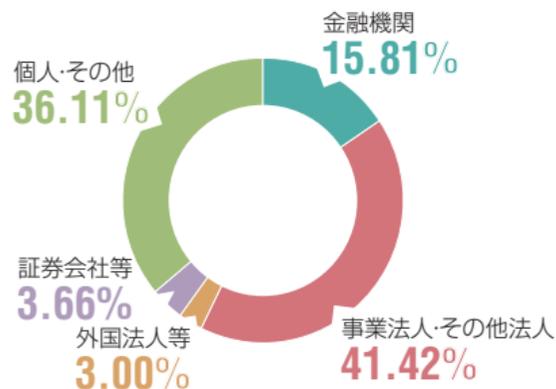
(注) 平成25年12月25日付の公募増資(2,100,000株)および平成26年1月21日付の第三者割当増資(345,000株)により発行済株式の総数は、2,445,000株増加いたしました。

■ 大株主

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---|---------|---------|
| 株式会社リーガルコーポレーション | 2,077 | 14.44 |
| 大成建設株式会社 | 1,113 | 7.73 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 708 | 4.92 |
| 中央建物株式会社 | 582 | 4.04 |
| 東京建物株式会社 | 500 | 3.47 |
| 日本証券金融株式会社 | 366 | 2.54 |
| 株式会社みずほ銀行 | 349 | 2.42 |
| みずほ信託銀行株式会社 | 300 | 2.08 |
| BNYM SA/NV FOR BNYM CLIENT ACCOUNT MPCS JAPAN | 263 | 1.83 |
| 特種東海製紙株式会社 | 250 | 1.74 |

(注) 1.千株未満は切り捨てて表示しております。
2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

■ 所有者別持株比率



■ 本社外観



HPのご案内



<http://www.nippi-inc.co.jp/>

株主メモ

| | |
|--|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日～翌年3月31日 |
| 定時株主総会 基準日 | 毎年6月 定時株主総会については3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める |
| 配当金受領株主確定日 | 3月31日（中間配当を行う場合は9月30日） |
| 1単元の株式数 | 1,000株 |
| 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 （郵便物送付先） （電話照会先） | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324（フリーダイヤル） |
| 公告方法 | 電子公告により当社ホームページに掲載 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載 |

【株式に関するお手続きについて】

1. 証券会社等に口座をお持ちの場合、原則として住所変更や買取請求などの株主様の各種お手続きは、ご利用の証券会社等を経由して行なっていただくこととなりますので、証券会社等宛ご連絡をお願いいたします。
2. 証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）、「みずほ証券」本店・全国各支店・営業所およびプラネットブース（みずほ銀行内の店舗）、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店でお取り扱いいたします。
3. 支払明細の発行に関するお手続きにつきましては、上記「郵便物送付先」宛お問い合わせください。
4. 未払配当金のお支払につきましては、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店、「みずほ銀行」本店・全国各支店にお問い合わせください。なお、「みずほ証券」ではお取り次ぎのみとさせていただきます。

お問合せ先



〒120-8601 東京都足立区千住緑町 1-1-1 TEL 03-3888-6651

表紙写真：アイマトリックス - 511

